

「道の駅」の改善に向けた取り組みについて

香川河川国道事務所 交通対策課 毛利 匡志
企画部 技術管理課 工物品質確保係長 綾 早都美
中筋川総合開発工事事務所 工務課 星川菜津美

「道の駅」は、人口減少、少子高齢化が進展する我が国において、「地方創生の拠点」としての役割への期待がますます高まっている。そのため、「道の駅」における更なる機能の改善を目的に実施した、香川県内「道の駅」における「女性目線でのトイレ施設の点検」、その結果を踏まえた「子育て世代に焦点をあてたトイレ改修計画」について報告する。

キーワード 道の駅、トイレ、女性目線、施設点検、子育て世代、授乳室

1. 「道の駅」の現状と新たな取り組み

「道の駅」に求められる機能は、「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域連携機能」を有し、道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供や地域振興に寄与することを目的とした施設である。

また、平成26年から国土交通省においては、更なる機能強化に向けて、地域外から活力を呼ぶ「ゲートウェイ型」および地域の元気を創る「地域センター型」としての重点「道の駅」、モデル「道の駅」を選定し、整備促進を図っている。その中で「道の駅」におけるトイレ施設は、「暗い」「異臭がする」「汚い」等の声が多く、あわせて施設の老朽化も進行している等、必ずしも利用者ニーズに対応した施設とはいえない状況にある。一方で、トイレの改善を実施した「道の駅」については、売上高が向上したとのデータもある。さらに、トイレの維持管理に関しては「トイレがきれいなことに感謝している」という声もあり、「道の駅」で一番気になるのがトイレ。きれいなところにはまた寄ってみたい」といった意見のように、トイレを清潔にしておくことで周遊観光促進や「道の駅」へのリピーター増加といったメリットも期待される。よって、トイレ施設の改善は、今後の「道の駅」の機能強化において、重要な課題であると言える。

加えて少子高齢化が急激に進展する我が国において、子育て支援は重要な施策であり、国土交通省では「道の駅」における子育て世代を支援する今後の取組方針(図-1)をとりまとめた。その取組みとして、24時間利用可能なベビーコーナー、妊婦向け屋根付き優先駐車スペース、おむつのばら売りができることを推進するものと

し、概ね3年以内(2021年目標)に、国が整備した「道の駅」全ての箇所の整備完了を目指すこととしている²⁾。以上のことから本稿において、「道の駅」のトイレ改善に向けて女性目線による点検と子育て世代に焦点をあてたトイレ改修計画について報告する。



図-1 子育て応援に取り組む道の駅(イメージ図)¹⁾

2. 女性目線による「道の駅」トイレ施設の点検

平成30年度に、香川県内の全「道の駅」(全18施設)を対象として、トイレ施設の改善に向けた事務所内の女性職員による点検を実施した。女性はトイレの利用頻度が高く、利用時間も比較的に長い(化粧直しや待ち時間等)、トイレに対する要望や関心度が高いと想定されることから、女性ならではの目線に着目した点検を行った。

(1) 点検内容

点検の内容は、表-1に示す基本設備、付加的な快適設備、維持管理、清掃状況などの7の大項目を、利用利便性等の観点も考慮し、更に11の小項目に分類し、小項目毎に21の評価項目を設定した。

表-1 点検項目及び評価の視点

大項目	小項目	評価項目
基本設備の充実度	必要な設備	●照明の明るさ ●喚起設備、緊急呼出しなど
	動線の確保	●案内の有無 ●動線上の段差など
	案内	●機能の案内
快適設備の充実度		●車いす、高齢者への配慮 ●子供連れへの配慮 ●清潔設備の設置 ●女性のための設備の設置
配慮事項		●利用しやすいへの配慮 (広い通路、空室がわかるなど) ●防犯上の配慮
日常管理	快適な設備	●屋内外照明の不点灯 ●設備の不備 (施設故障、棚の破損など)
	サイン	●トイレ機能案内の汚れ
	日常管理	●便座シート、ペーパータオルの補充
清掃		●トイレの清潔感 ●便器、便座の汚れ ●床、手洗い場等の汚れ ●悪臭、異臭
工夫		●花を飾る、音楽を流すなどの工夫
再利用の意向		●このトイレの再度の利用意向

(2) 点検および評価方法

点検は、事務所の女性職員から2～3名を選り、各「道の駅」に出向き、各人が評価項目毎に“良好”、“普通”、“不良”の3段階で評価するとともに、特徴的な点の写真撮影(図-2)を行った。



図-2 「道の駅」トイレ施設点検状況(「滝宮」)

点検結果は、評価項目毎に“良好”を2点、“普通”を1点、“不良”を0点として点数化し、大項目毎に100点に換算した点数を算出した。また、トイレ施設の総合

評価として、7の大項目の平均値を総合評価点とし、80点以上をAランク、60点以上をBランク、40点以上をCランク、20点以上をDランク、20点未満をEランクとしたランク付けを行った。

(3) 点検結果

香川県内の全「道の駅」(18施設)におけるトイレ施設のランクを見ると、Dランクが7施設(38.9%)と最も多く、最も良いAランクが3施設(16.7%)、最も悪いEランクが1施設(5.6%)となっている(表-2)。

表-2 トイレ施設における総合評価ランクごとの施設数

総合評価ランク	A 良好	B	C 普通	D	E 不良
施設数	3	3	4	7	1

次に、大項目毎の平均点を見ると、「快適施設の充実度」がもっとも低く、時代に沿った快適なトイレ施設への改修が必要となる(図-3)。

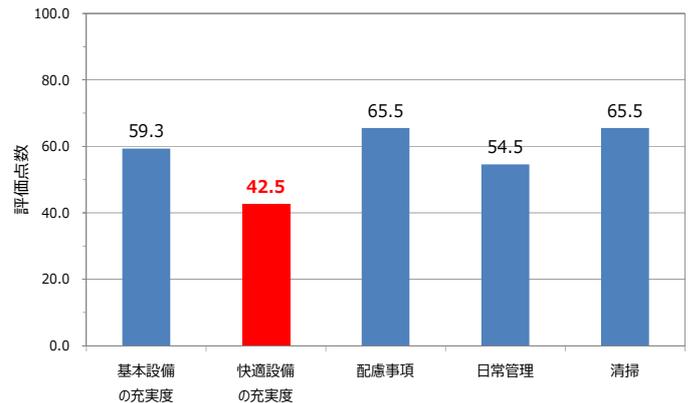


図-3 大項目毎の評価点数

また、「快適設備の充実度」における評価項目毎の平均点は、「車いす、高齢者への配慮」が最も高く(図-4)、身障者用トイレや手摺などは、多くの施設で整備されているものと考えられ、今後は、女性や子供連れに配慮したトイレ改修が重要となる。

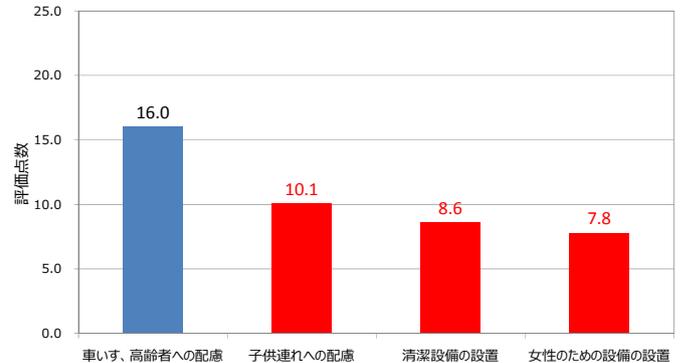


図-4 「快適設備の充実度」における評価点数

3. 子育て世代に焦点をあてたトイレ改修計画

(1) 道の駅「とよはま」の改修計画

香川河川国道事務所では、管内の直轄一体型4か所の道の駅（①源平の里むれ、②とよはま、③空の夢もみの木パーク、④滝宮）についてトイレの洋式化に合わせ、子育て世代にも焦点をあてたトイレ改修計画を予定している。そのうち道の駅「とよはま」の改修計画について報告する。

(2) 道の駅「とよはま」の現状

道の駅「とよはま」のトイレ施設は、蔵をイメージした白壁を基調としたデザインで、休憩(喫煙)コーナー及び多目的トイレの左右に男女のトイレが配置されている。

女性目線による点検結果では、図-5の診断書に示す通り、配慮事項及び清掃については「B」、基本設備の充実度、快適設備の充実度、日常管理については「C」、総合評価は「C(普通)」クラスと判定されており、魅力ある施設とするためトイレ改修が必要であると判断した。

なお、女性職員の感想の「全体的に暗いのが気になりました」については、トイレの床は図-6に示すように川砂利洗出し仕上げ(湿式清掃、モルタル色)のため、清掃水が残留しやすく、汚れやすいこと、また、照明設備は、タイマー式照明のため日中は一部の天窓等による採光のみとなっており、曇天または雨天時には室内が暗い状況となっていることがその理由と考えた。トイレが日中でも暗いと心理的に不安をあおることにつながる。つまり安心して使う為には天候に左右されることなく、明るくかつ清潔でなくてはならない。よってトイレに求められる優先事項としては一定以上の明るさの確保と清潔感であることが明らかとなった。



図-6 「とよはま」トイレの現状(女子トイレ)



図-7 「とよはま」トイレの現状(休憩コーナー)

(3) トイレ改修計画における改修方針

トイレ改修計画にあたり法令・方針をもとに基礎的機能である「高齢者、障害者への配慮(バリアフリー)」と「機能改善強化(使いやすさ改善、明るさ・清潔感の創出)」、さらに昨今の社会要請である「子育て支援」に関する3つの側面から整理し、整備内容およびグレード別の3段階レベル(第1案～第3案)整備項目概算一覧表の作成を行った。なお、本稿においては各項における概算金額を第1案に対する率表示に修正したものを表-2に示す。改修メニューの抽出にあたって全ての項目を改修する案である最高グレード(第1案)と法令等に定められているメニューのみの改修案である必要最小限(第3案)を決め、そこから現状の設備状況や課題への対応策も勘案した推奨案(第2案)を決定した。また重要度◎は法令等に定められている為必ず何らかの措置をしなければならないことを意味する。

(4) トイレ改修計画における推奨案の抽出

現況の施設調査結果と女性職員によるトイレ点検のアンケートから明らかとなった課題を基に、必要最小限(第3案)に加えた特に優先事項の高い項目を選定し推奨した。点検から明るさと清潔感は特に子育て世代が気



図-5 「とよはま」の道の駅診断書

